

諏訪のいろはかるた (16)

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた(信濃文化研究会作成)」に詠われたかるたを紹介します。



あ 阿呆丸で島を運んだ五六郎

諏訪湖の水は、ただ一つの排水口である釜口の幅が極端に狭く、排水を妨げ、雪どけ時や梅雨・台風などの時には毎年のように大洪水となって湖岸上流の住民を悩ました。この排水を良くするために釜口の下浜側に満水堀という掘り割りをつくって島が出来たのは天正年間といわれる。伊藤五六郎は諏訪湖の南岸、有賀村の百姓であった。年々悩まされる洪水を防ぐには釜口河口の島を取り去るよりほかにはないと藩に願い出て浜中島の撤去にとりかかった。まず中一間半、長さ八間という今まで人々が見たことのない大船を建造した。島を一つ取り去るなどという大事業の成功はむづかしいと笑う気持と、馬鹿大きな船であったので人々は「阿呆丸」と呼んだ。しかし五六郎はそんな世評には屈せず、延一万五千九百十一人の貧民を集め、約一カ年かかって土砂を運び去り、その年の暮には浜中島は姿を消した。



て 手長さま足長さまは国津神

諏訪明神が出雲の国から諏訪の地に来たころ、諏訪湖に入って漁をしていた国津神がいた。それはおそろしく長い足の神と、手の長い神で足長の神が手長の神を背負って湖にはいり、魚をとるといって共同作業であった。この伝承は、そのころ漁撈を主として生活していた先住民族がいたということであらわしている。古事記によると須佐之男命が簸川の上流で八岐大蛇を退治して助けた櫛名田比売命の足名稚神・手名稚神であった。櫛名田比売命の子が大国主命でその子が建御名方命であるとすれば、足長・手長の神は諏訪明神の曾祖父母に当たることになる。水辺に住む昔の人たちが、背の立たないような深い湖中にもたやすく入り、手の届かない所へも容易に手を伸ばすことが出来たらよいと願ったのだろうか。諏訪には手長神社・足長神社がそれぞれ祀られている。

町図書館から 今月のおすすめ本



鎌田 実作

無理なく「変わる」にはどうすればいいか。作者は「がんばらない」ことを強調している。変えよう、変わるうなど力まず自然体になった瞬間に、人は変わる。そしてその瞬間を逃してはいけない。その一瞬に「えいや」と行動を変える。行動が変われば心が変わる。また、新たに何かを始めれば別の効果が出る。ことがある。何か分からないがそれを期待すればワクワクしてくる。「標準」ではなく「ちょい太」を提唱する鎌田氏ならではの、あたたかいアドバイスが詰まった一冊です。

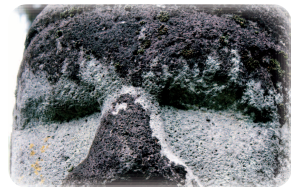
(依田 秀人)



木下 順二 作
瀬川 康男 絵

このシリーズは平家物語の魅力的な登場人物9人を取り上げた絵巻物です。都落ちする平家一門を引き連れ、敗戦を予期しながら最後の壇ノ浦の戦いを指揮した知盛の心の変遷を、瀬川さんがみごとに描き切りま

(井上 喜久美)



万治さん、目あいてるの？ それともつぶってる？



太陽に向かって咲く 大きなひまわり

Kids Z-3 とっておきの夏休みに



10月の暦
菊花奉納報告祭
降幡 勇作



身近な森の

きこり体験

おめでとう！



全日本中学選手権競漕大会
○高橋 沙恵さん
女子シングルスカル(1000m)優勝
○下諏訪中学校 ボート部
女子舵手付クオドルブル7位入賞



表彰状 第32回
北信越中学校総合競技大会
共通女子1500m 優勝
小林 巧さん
全国高等学校総合体育大会
男子3000mSC 優勝
長野県高校新記録

下諏訪町からトップアスリート続々！